

# 栃木県立美術館 令和4（2022）年度事業等評価【概要】

## 1 趣 旨

令和4（2022）年度県立美術館の運営について自己評価を行い、その結果を美術館評議員会に諮り、外部評価を実施した。

なお、外部評価は平成28年から本格実施し、本年度は美術館中期計画（第2期）に基づく2回目となる。

## 2 対象期間

令和4（2022）年4月1日から令和5（2023）年3月31日まで

## 3 自己評価総括

令和3（2021）年度から美術館中期計画（第2期）をスタートさせ、それぞれの目標達成に向けて取り組んだ。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、特に、アートクルーズ来館学校数は目標を大きく下回る結果となった。

学校教育との連携など、引き続き対応の検討を進めるべき課題もあるが、コロナ禍の制約の中で意欲的に事業に取り組み、幅広いファン獲得に向けて努力しており、これらを総合的に勘案すると概ね適正な運営であった。

## 4 外部評価所見

令和4（2022）年度の美術館の運営状況については、概ね適正に運営されたと判断し、次の項目を意見とする。

### ① 学校への美術館事業の広報について

小中学校では美術を専門とする教員数は減っている。教育現場に対して、美術館の事業を学芸員の方から直接に説明する機会を設けるなど学校への事業周知に努めてほしい。

### ② オンライン鑑賞教育の実施について

コロナ禍における移動制限や教員数不足などで従前のような鑑賞教育の実施が難しい中、学校の教室と美術館とを結んだオンライン鑑賞教育は大変好評であることから、事前準備のデジタル化等による省力化を図りながら、多くの学校に普及させてほしい。



## 5 取り組むべき課題

- ◆ 学校との連携の強化
- ◆ 老朽化した施設・設備等の計画的整備
- ◆ ボランティアの効果的な活用